

2007年4月10日

近畿労働金庫

理事長 石橋 嘉人 様

教育ローンキャンペーン

## 「近畿ろうきん NPO アワード」 選考結果報告書

近畿ろうきん NPO アワード 審査委員会

審査委員長 網島 雅彦

去る2007年4月4日に開催された「近畿ろうきん NPO アワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

### 1. 審査にあたって

今回審査に当っては、2007年2月末での募集締め切りの後、労金側の事務局から事前送付された応募書類をもとに各委員が事前の書類審査を行ったうえで、4月4日に審査委員会を開催して各受賞団体を決定しました。

審査委員会には審査委員5名全員が出席し、互選により審査委員長を選出したうえ、審査委員会指針に則って、事前審査の内容を参考にしながら合議を進め、大賞1団体、優秀賞2団体、奨励賞7団体を決定しました。審査委員は下記の通りです（敬称略）。

審査委員長 網島 雅彦

審査委員 島 久美子、山縣 文治、山添 令子、法橋 聡

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外すこととしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

### 2. 決定、総評

本アワードには、近畿一円の計68もの多くの団体から、プラン応募をいただき地域における裾野の広さと需要の大きさを感じる結果となりました。子育て支援をテーマにした今回は、新たに活動を始めようとしている団体とあわせて、これまで地道に活動を続けてきた団体からの応募も多く、それぞれに優れた着眼点・発想を持ったプランばかりで、審査委員会でも助成団体の決定には大変熟慮を要しました。

活動としては、対象の年齢も乳幼児期から小中学生までと幅広く、また、障がい児・不登校児・外国籍の子どもなどと、それぞれが抱える課題に寄り添った事業プランの応募がありました。さらに、乳幼児の親・父親・一人親家庭など、多様な子育て家庭への支援で、地域の子育て環境を整えようとしているNPO・ボランティア団体の姿

とその奮闘ぶりが如実に表れていました。全体的に、福祉的なアプローチに留まらず、まちづくり、自然環境などの多岐にわたる分野からの応募となり、それぞれ市民による主体的な取り組みであるという視点からも、非常に社会的な意義の高い事業プランが集まったと言えます。

なお、審査にあたっては、事業そのものの先駆性、社会ニーズへの対応性、あるいは実現性、波及性などの項目に加えて、事業実施団体の活動歴や継続性、あるいは組織運営体制の項目を基準にしながら、審査委員の真摯な協議によって総合的な判断をしました。また、特に、子育て分野の今後の発展・展開を考えると、地域での協力関係の構築や市民の共感度の重要性がより高くなるため、その点も重視しました。

いずれも甲乙つけ難い提案のなかから受賞団体を決定した訳ですが、特に、大賞・優秀賞を受賞した3団体は、事業計画の信頼性や実現性、社会ニーズへの対応性もさることながら、先駆性、市民や他の組織との協力関係やコラボレーションなどが高く評価されました。最終的にこれらの提案には及ばないながらも、実現性や独自性などの点で高く評価された7団体が奨励賞に決定しました。結果、受賞団体は、近畿一円からの応募を受けて広範囲からの選出となり、また子育て支援に関わる幅広い活動から選出されるなど、地域・分野ともに広がりを持った選出となりました。

各受賞団体の事業プランや選考に当たっての講評については、次ページ以降をご確認ください。

今回、惜しくも選にもれた団体についても、その事業プランの内容や熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを一言付け加えておきたいと考えています。

### 3. 今後への提言として

今回の「近畿ろうきんNPOアワード」は、阪神・淡路大震災10年事業の一環で防災をテーマに実施した昨年度に引き続き、公募型の助成プログラムのスタイルで実施されたものです。2006年9月から2007年4月の期間における「教育ローンキャンペーン」の新規利用額の0.05%相当を助成金として提供することを通して、子どもの未来を応援するろうきんローンの利用を、地域での子育て支援につなげていこうとするものです。

応募いただいたプランは、いずれも切実な社会的ニーズに基づいた真摯な事業プランばかりで、「子育て支援」が働く仲間にも共通する社会テーマであり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支えるろうきん運動にとっても大きなテーマになり得るものであることを痛感することとなりました。また、ろうきん利用の促進が地域貢献につながるという新たな仕組みを取り入れながらろうきんの社会的アナウンスを高めるなど、まさに、グッドマナーバンクろうきんに相応しい事業であったと考えています。

審査委員一同として、今回のようなろうきんの特色を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を単発のものに終わらせず、近畿ろうきんのグッドマナーバンクの実践として、さらに創意工夫していただいて、ぜひ、今後もより発展的にこのアワードの仕組みを継続いただきたいと強く念ずる次第であります。